



くぬぎ通信



2020年12月発行 第352号
市原第7団ボーイ隊長 土橋一弘
2020年11月度テーマ ; はるかな丘へ

11月度 隊活動

11月の活動はサイクリングです。コースについてはスカウトニーズとスカウトの判断により決まるもの。その決定経緯は、班長会議の検討段階では7種類のバラエティーにとんだコースがあったところ、各班に持ち帰り相談して決まったコースは一番上り下りが多く、距離も長いもの。(素晴らしい!!)

コース(野営場→高滝湖→鶴舞→長柄町→市津湖→山倉ダム→野営場)

コース経路上では、毎度の道間違えや、パンク、チェーン外れなどトラブルがあったものの、みんな良く頑張り、また協力しながら野営場のゴールまで戻ってくることができました。

ゴールの到着時、最後尾のスカウト1人だけにせず、一緒にゴールした班長の優しさは嬉しかったですね。【スカウトは友情にあつい】



スカウト諸君へ

12月以降の隊活動予定

テーマ ; はるかな丘へ
活動目標 ; ・健康の増進につとめ、身体を強健にする
・自ら考え判断する力を養う。

プログラム ; 長距離ハイキング
ソング ; あるけ P46 ハイキング P43
当番班 ; ハヤブサ班

| 日時 | 場所 | 集会 | 内容 |
|-------------|-----------|---------|----------|
| 13日(日) 18時~ | 姉崎公民館 | 班長会議 | 12月、1月活動 |
| 13日(日) 19時~ | 姉崎公民館 | 班長訓練 | ハイキングスキル |
| 未定 | 未定 | 班集会(各班) | 12月活動 |
| 20日(日) | 野営場 | 団行事 | クリスマス会 |
| 27日(日) | 新習志野駅~野営場 | 隊集会 | 長距離ハイキング |

<活動状況写真>

○安全訓練 (NKYT)



○「三角点」発見



○サイクリング日和



○ソージャルデ イタタス屋食(高滝ダム記念館)



○安全祈願 (高滝神社)



○全員無事ゴール



いろいろあったけど...

「スカウト運動」 E.E.REYNOLDS より(一部加筆修正要約)

~1909年-1914年(出来事)~

- ・1909年8月: B-Pは3回目のキャンプとして船上での水上キャンプを行った。これがシースカウトのはじまりである。(日本海洋少年団連盟の前身)
- 1909年9月: イギリス(ハイドパーク)にて大きな集いが行なわれた際、B-Pはスカウトハットを身につけた女性たちに出会った。彼女たちは「私たちはガールスカウトの狼班です。男の子たちのようにスカウティングを行いたい」と言った。これがガールスカウト組織を急がせるきっかけになったのである。
- ・1909年秋: 濃い霧のロンドンでシカゴの出版業者ウイリアムD. ボイスは道に迷ったところ、1人のボーイスカウトに助けられ、お礼の小銭を渡そうとすると、そのボーイスカウトは「善行してもお金はいただきません」と言われた。興味をもった彼はアメリカにトランクいっぱいボーイスカウトのバッジやユニフォームを持ち帰ったところ、アメリカには既にボーイスカウトの方針に沿って活動している(動物記の)トムソン・シートンのウッドクラフト・インディアンズなどの組織があることを知った。
- ・1910年: このころになるとスカウト運動は国内・各国とも急速な広がりを見せていた。しかし、その弊害により協道にそれ軍隊的な隊などが現れてくるところもあった。B-Pはエドワード7世などに相談したところ、「ボーイスカウト組織は、将来に対して非常に重大な影響を持っているものであるから、あなたが国家に尽くす最大の奉仕はボーイスカウトに専念することだ」と進められ、34年の兵役を退役した。ボーイスカウトは名誉の点からも、能力を発揮できる場からもかけがえのないものであった。
- ・1912年: 西インド諸島に旅行した際、オレーブ・セントクレア・ソームス嬢に出会った。そして、その年の10月30日に結婚している。その際の記念品として自発的な募金(スカウトは1ペニーに制限)により自動車を贈られたものである。
- ・1913年: 自治領・植民地・各国を含め2万人のスカウトがバーミンガムにて皇室スカウト展覧会を行った。これがジャンボリーの先駆である。この集会では人命を救助したスカウトを表彰されているが、B-Pは応急手当の技術・勇気に対し非常に重きを置いていたのである。